

# 古代エジプト文字の研究者、 村治笙子さんが講演

古代エジプトの壁画やヒエログリフ（古代エジプトの象形文字）の研究者である富士高18回卒の村治（齊藤）笙子さんをお招きし、3月11日午後、杉並区阿佐谷南の杉並区立産業商工会館で、同窓生講演会が行われた。テーマは『エジプト探訪 古代エジプトの壁画の魅力を語る』。会場に集まった33人の卒業生、恩師らは、展示されたエジプトの民芸品を堪能。古代エジプトの壁画などのスライドに見入った。（文・写真：高校27回卒・相川浩之、写真：同・落合恵子）

村治さんは、東洋大学西洋史学科卒業。古代エジプトの神殿、墓の壁画やヒエログリフなどを研究しており、著書に岩波新書『古代エジプト人の世界』、河出書房新社『図説 エジプトの死者の書』、山川出版社『ナイルに生きる人びと』、東京国立博物館『トーハクのミイラ』などがある。

小さい頃、ギリシア哲学の研究者だった父親からギリシア神話の話などを聞いて育ったせいか、地中海世界に興味を持ち、自宅にあったヒエログリフの辞書がきっかけになりエジプトを学び始めた。高校時代に世界史を習った小宮進先生の影響も大きかったという（小宮先生は結婚式の仲人も務め、今回の講演会にも参加された。また、同期でご主人の齊藤俊夫さんも講演会に参加された）。結婚後、10年間はエジプトからは全く離れたが、娘さん2人が中学生になった40歳の時に初めてエジプトを訪ね、それ以降、毎年エジプトに行き、現地でしか見ることのできない神殿や墓の壁画を見て回っているという。

会場には、モロヘイヤ包丁、エジプトの民族衣装、民族楽器など現代でも使われている民芸品を展示。「遺跡だけがエジプトの魅力ではない」と村治さんが冒頭で紹介した。スライドでは、ツタンカーメンの墓や、古代エジプトの王、ラムセス2世の父親や王妃の墓にある壁画とそこに記されているヒエログリフを見せてくれた。冥界の神、オシリスなどが描かれており、村治さんがその絵の意味を解説してくれた。

エジプトへの関心が掻き立てられる講演会だった。



今年1月のエジプト取材のスライドを紹介



(上) エジプトの民芸品も数多く展示し、解説  
(下) 古代エジプトで使われていたものを紹介

## 平成29年度〈同窓生講演会〉のお知らせ

講演者：劇作家・演出家

永井 愛氏 (22回卒)

演 題：「芝居が教えてくれたもの」

日 時：平成29年10月8日（日）

13時半開場 14時開演

所要 約2時間

場 所：なかのZERO小ホール

中野区中野2-9-7

TEL：03-5340-5000（代）

入場料：500円

\*予約して頂ければ優先入場できます。

若竹会事務局に氏名、卒回又は卒業年をご連絡ください。

アドレス：wakatakekai.renraku@gmail.com

\*ご家族もご一緒にご来場ください。

\*在校生も大歓迎です。（在校生は無料）



- ・二兎社主宰。
- ・桐朋学園芸術短期大学 演劇専攻科卒
- ・主な作品：『ら抜き殺意』  
『こんにちは、母さん』  
『鷗外の怪談』  
『ザ・空気』 等
- ・受賞歴：岸田國土戯曲賞、読売演劇大賞優秀演出家賞、芸術選奨文部科学大臣賞等